

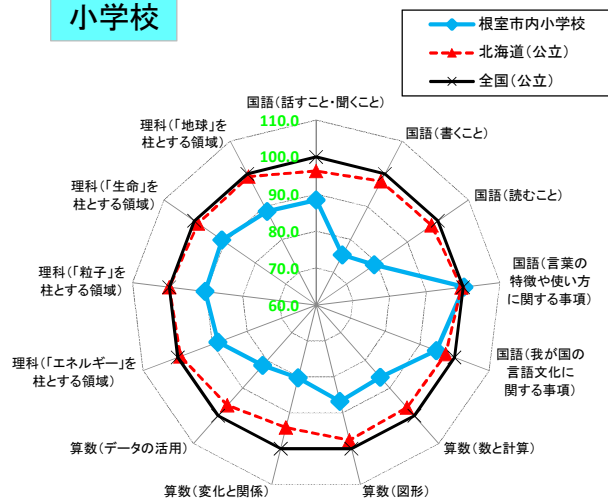
■根室市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:130人）（中学校数:6校、生徒数:170人）

【教科全体の状況】

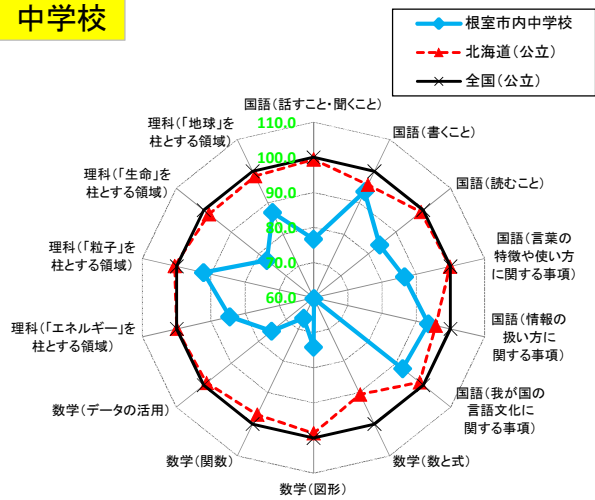
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	60
算数・数学	54	35
理科	57	42

小学校

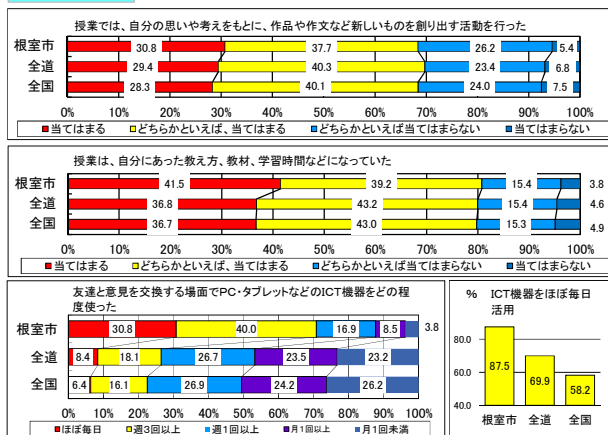


中学校

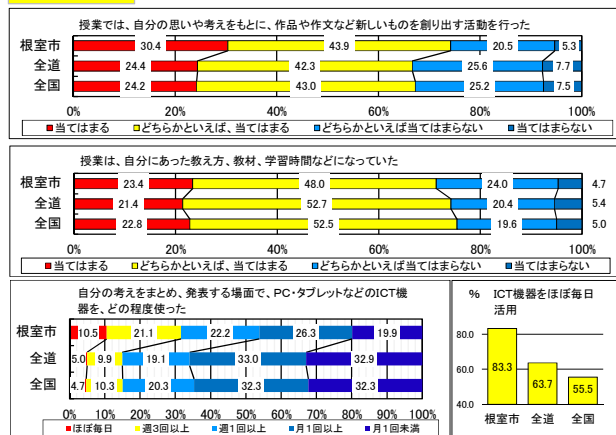


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「学力向上プロジェクト推進会議」や「授業改善推進チーム」の取組により授業改善が図られ、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っている、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間等になっていると回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で積極的に活用することや「授業改善推進チーム」の取組により、友達と意見を交換する場面でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使うと回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

「学力向上プロジェクト推進会議」の取組により授業改善が図られ、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っている、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間等になっていると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で積極的に活用する取組により、自分の考えをまとめ、発表する場面でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使うと回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

【根室市の学力向上策】

- ◎ 校長・教頭・教諭の代表と教育委員会とで組織する「学力向上プロジェクト推進会議」等による指導方法の工夫・充実
- ◎ 市内教職員による「根室市学校連携教育研究会」を通じた幼保小中高の連携の強化
- ◎ タブレット端末を最大限に活用した授業改善を進化させるための教員研修の充実

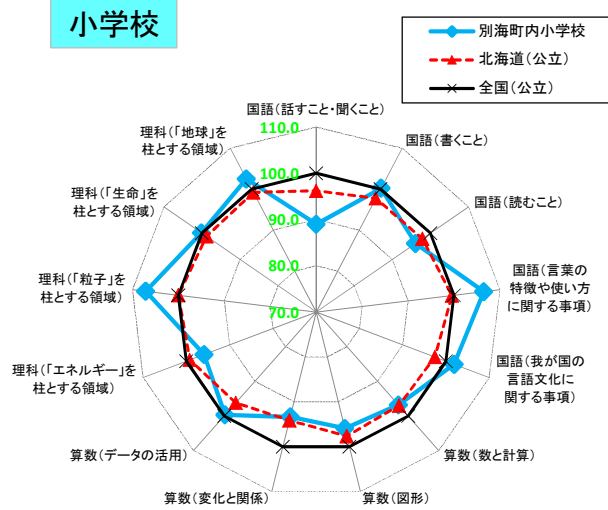
■別海町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:107人）（中学校数:8校、生徒数:116人）

【教科全体の状況】

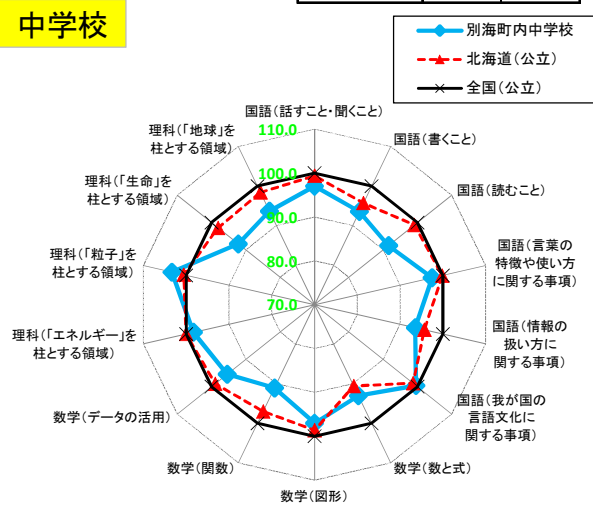
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	66
算数・数学	61	48
理科	64	48

小学校

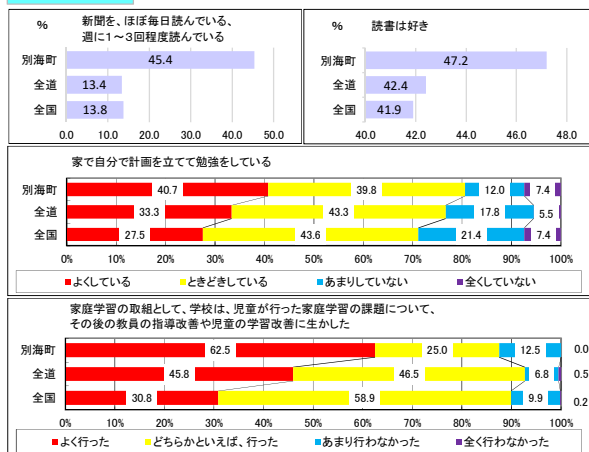


中学校

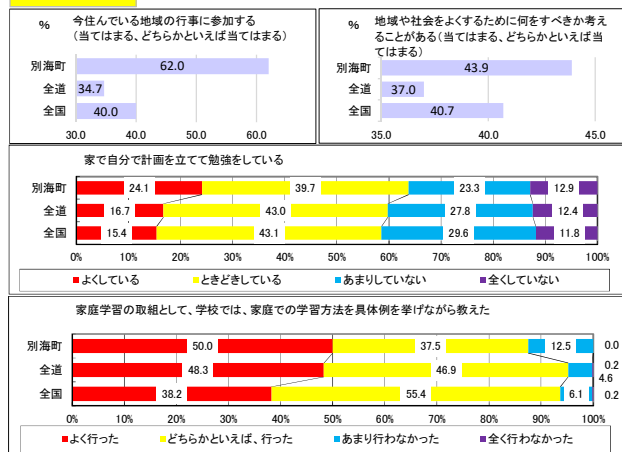


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

新聞を活用した教育活動や読書活動の推進など、総合的な読解力向上に向けた取組を行ったことにより、新聞を読んでいる、読書は好きと回答した児童の割合が全道及び全国を上回り、国語の1領域2事項の平均正答率が全道及び全国を上回ったと考えられる。

各学校で児童が行った家庭学習の取組について、教員による指導を通じて児童が学習活動の改善を図ったり、家庭学習などに利用できるタブレットドリルを導入したりしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

地域一丸となって子どもを育てる環境づくりを行う「別海型CS」の活動で、学校・家庭・地域・行政が連携して子どもの豊かな学びを推進したことにより、今住んでいる地域の行事に参加する、地域や社会をよくするために何をすべきか考える肯定的に回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

各学校で、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えたり、家庭学習などに利用できるタブレットドリルを導入したりしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

【別海町の学力向上策】

- ◎ 新聞を活用した教育活動や読書活動の推進など、総合的な読解力向上を図る取組
- ◎ 地域一丸となって子どもを育てる環境づくりを行う「別海型CS（コミュニティ・スクール）」の推進
- ◎ タブレットドリルの活用を含む家庭学習の充実

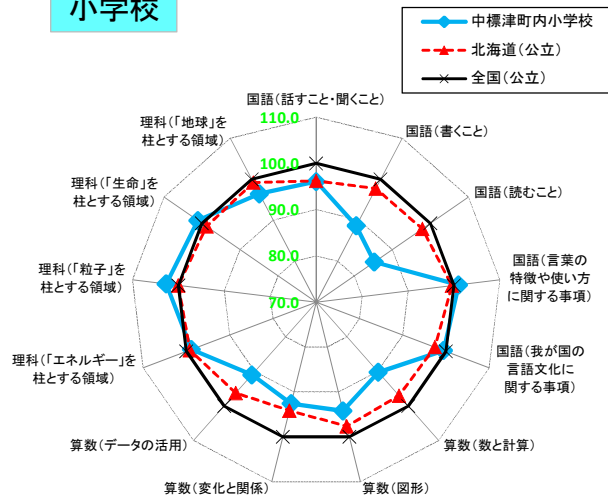
■中標津町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:151人）（中学校数:3校、生徒数:187人）

【教科全体の状況】

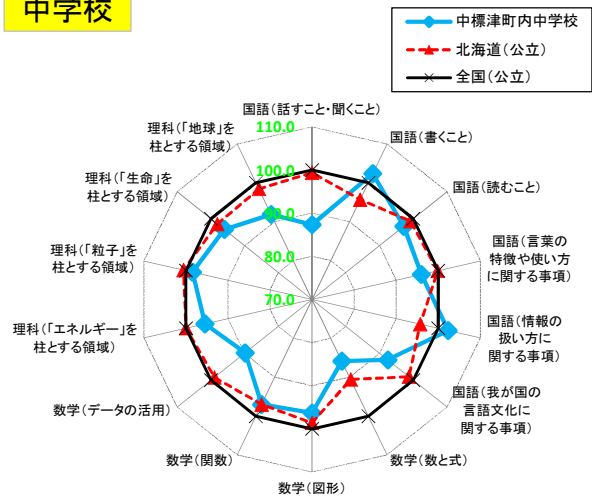
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	65
算数・数学	58	47
理科	64	47

小学校

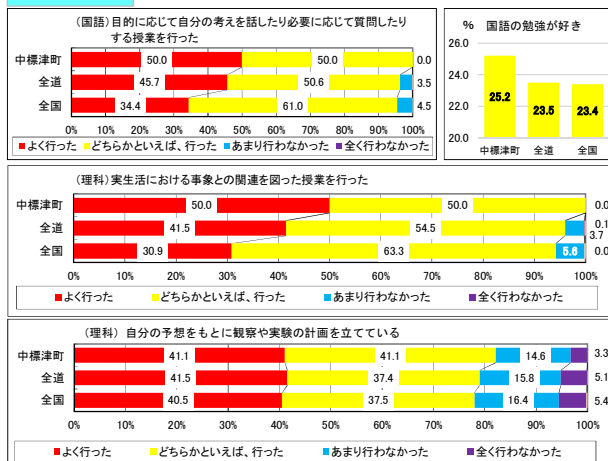


中学校

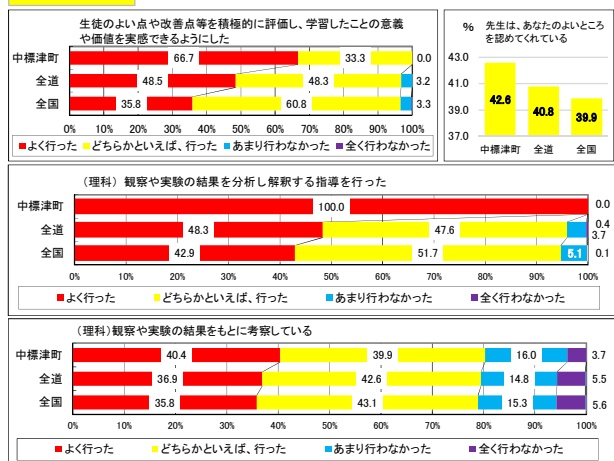


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全道及び全国を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全道及び全国を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した児童の割合が全国を上回り、「生命」及び「粒子」を柱とする領域において、全国を上回ったと考えられる。

中学校

生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、観察や実験の結果をもとに考察すると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回り、「粒子」を柱とする領域において、最も全国に近くなったと考えられる。

【中標津町の学力向上策】

- ◎ 各中学校区における義務教育9年間を見通したグランドデザインに基づく、小・中学校の接続を重視した教育活動の推進
- ◎ 「中標津学校改善支援プラン」に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組の充実
- ◎ 学習習慣や正しい生活習慣を定着させる「生活リズムチェックシート」及び「スイッチオフ22運動」の実施

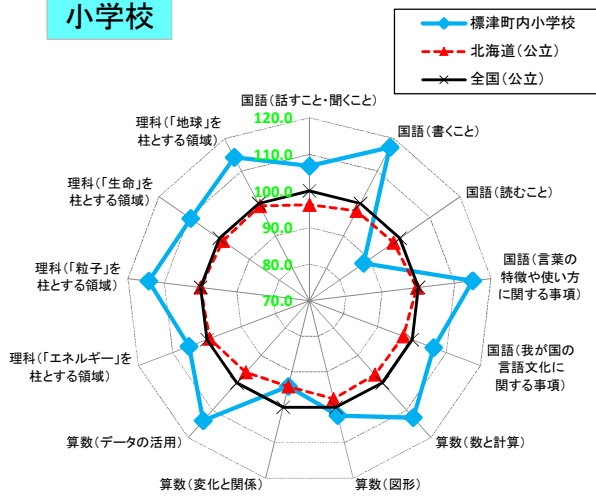
■ 標津町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:29人) (中学校数:2校、生徒数:31人)

【教科全体の状況】

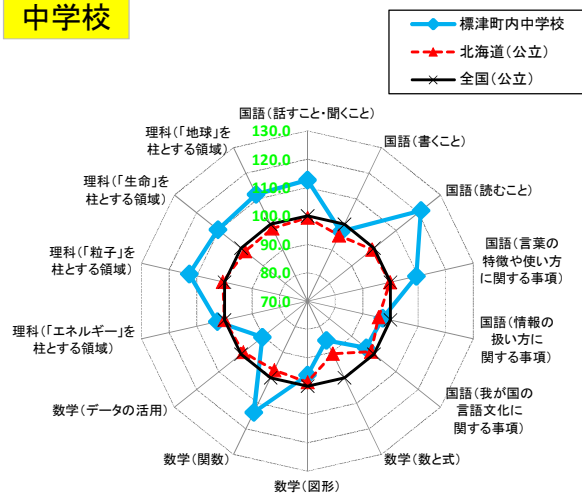
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	74
算数・数学	67	48
理科	70	54

小学校

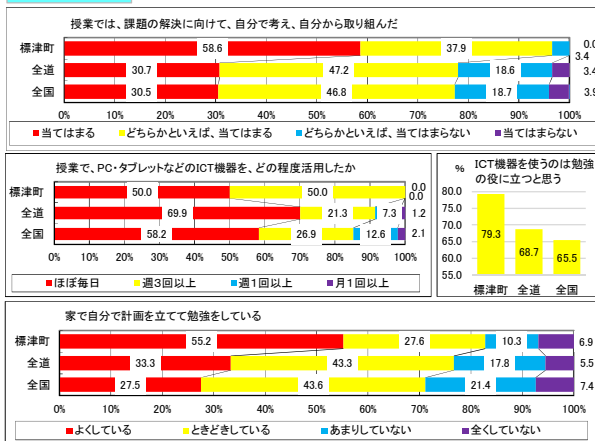


中学校

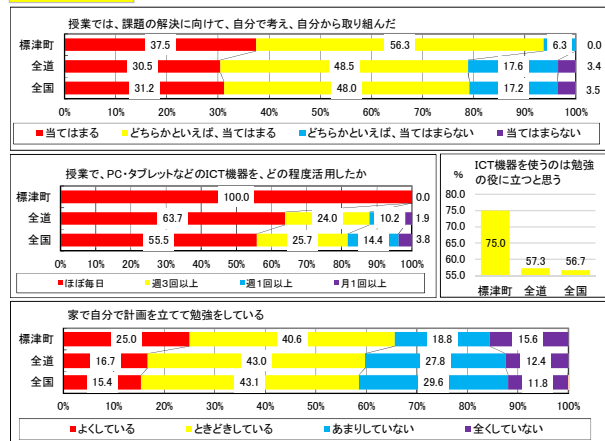


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

問題解決的な学習の充実に向けて、「標津型学習スタイル」を推進することにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が全道及び全国を上回り、全ての教科において、平均正答率が全道及び全国を上回ったと考えられる。

一人一人に配備されたICT機器を授業で積極的に活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

一貫教育推進協議会を通して、家庭と連携したメディアコントロールの育成の在り方を共有したことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

問題解決的な学習の充実に向けて、「標津型学習スタイル」を推進することにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回り、国語、理科において、平均正答率が全道及び全国を上回ったと考えられる。

一人一人に配備されたICT機器を授業で積極的に活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

一貫教育推進協議会を通して、家庭と連携したメディアコントロールの育成の在り方を共有したことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

【標津町の学力向上策】

- ◎ ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る「標津型学習スタイル」(問題解決的な学習)の推進
- ◎ 標津・川北両地区の一貫教育推進協議会を通した異校種コラボレーション授業研究及び部会協議の推進
- ◎ 家庭との連携を図った、適切にメディアコントロールできる能力の育成及び環境づくりの推進



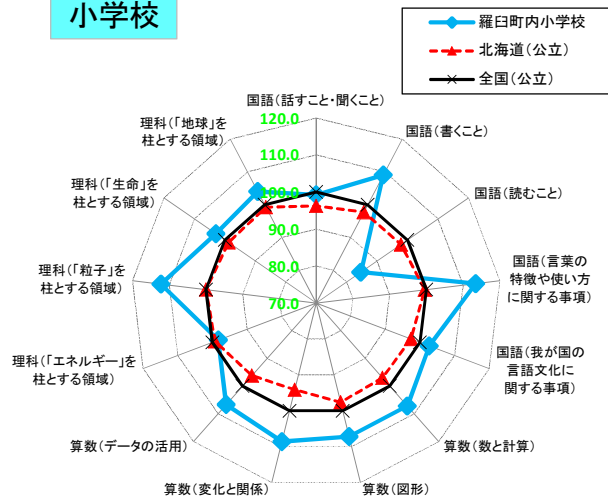
■羅臼町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:35人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

【教科全体の状況】

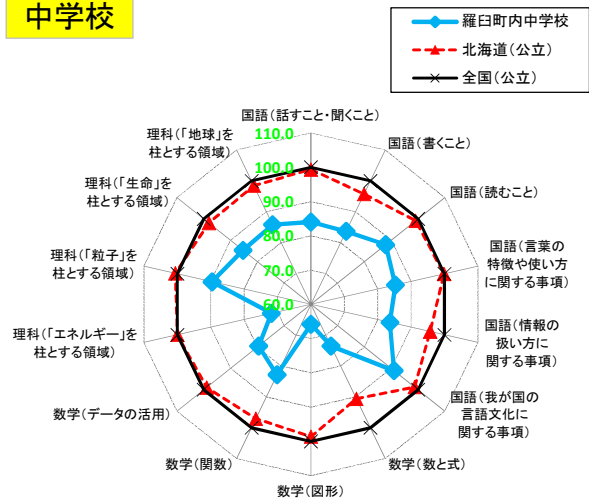
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	60
算数・数学	68	39
理科	66	41

小学校

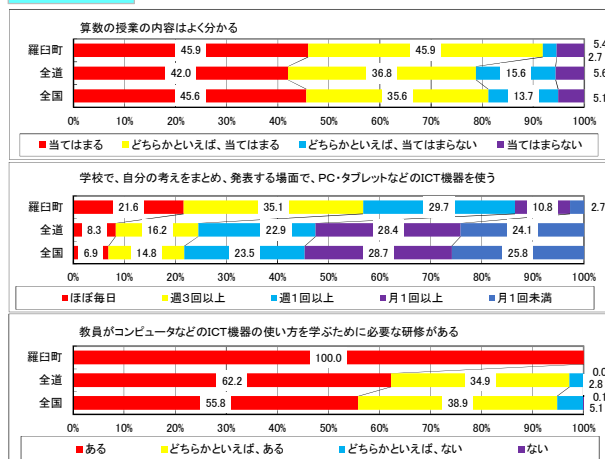


中学校

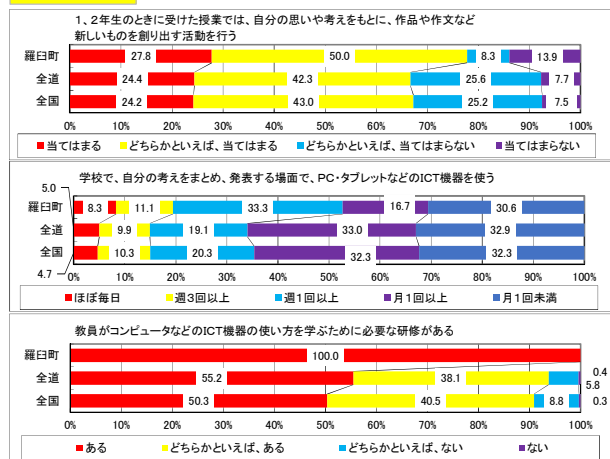


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

小・中学校が連携して、「羅臼町学力向上プラン」による授業改善や「幼小中高合同研修会」を実施したことにより、算数の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の全ての領域で全道及び全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶ研修を実施し、ICTの特性を生かした授業実践を行ったことにより、学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使うと回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

小・中学校が連携して、「羅臼町学力向上プラン」による授業改善や「幼小中高合同研修会」を実施したことにより、1、2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文などの新しいものを創り出す活動を行っていたと回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶ研修を実施し、ICTの特性を生かした授業実践を行ったことにより、学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使うと回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

【羅臼町の学力向上策】

- ◎ 「羅臼町学力向上プラン」による確かな学力の定着を図る授業改善の実施
- ◎ 小・中学校で研究主題を統一して一貫して取り組む授業改善や「幼小中高合同研修会」の実施
- ◎ ICTの特性を生かした授業の指導方法工夫改善に向けた研修会の実施